

『星陰りて、謀り響く』追加ハンドアウト トーラス

陰謀論者のマードーミステリー

条件: 「『トーラス』が何か」を GM に伝えること

PC2 『セレナーデ』であること

ネタバレ防止用ページ

追加情報: シンフォニーは元警察官。

以下はフレーバーテキストです。

トーラス。おうし座をモチーフにしたそのタバコを見た瞬間、僕の脳裏に懐かしい記憶がよみがえる。

卒業旅行の2日目、本土の「トエ市」に到着した僕たちははしゃぎすぎて、はぐれてしまったのだった。連絡を取ろうにも、買ったばかりのアオイのスマホはなぜか僕のカバンに入っている。見慣れぬ街並みに、沈む夕日に、僕は途方に暮れていた。

僕のスマホが鳴った。見慣れぬ番号。

「……はい。なんでしょうか」

「トエ市警察の……と申します。こちらはレンさんのお電話でよろしいでしょうか」

警戒をあらわにした僕の堅い声とは真反対に、かけられたのは柔らかい声だった。

「——ということで、その交番でアリアケ・アオイさんを保護していますので、迎えに来ていただけますか？」

交番でお茶を飲んでいたアオイは、僕の顔を見るなり、イスを立った。あまりにあわてたのか、自分で蹴ったイスにつまづき、結果的に僕の胸に飛び込むことになる。かぎなれたアオイのにおい。と、タバコのにおい？

「お氣をつけて」

と言ったのは先ほどの電話口と同じ声だった。かたわらのテーブルに灰皿と、おうし座をモチーフにした「トーラス」というタバコの箱が置いてあった。

「お氣をつけて」

ファロス灯台を出るとき、シンフォニーがかけてくれたその声に聞き覚えがあるのも当然だった。

シンフォニーこそが「トーラス」。あのとき、私とアリアを助けてくれた恩人だ。

アリアの殺人事件について何か知っているかもしれない。